

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止



HOT CANDY



**HOT CANDY**

いつかわたしの苗字が  
折木になるのか……

わたし  
気になります!!



少女は生臭い匂いと  
味にむせ返りそうに  
なりながらも  
必死に男の肉茎に  
舌を這わした。



その拙い舌遣いに  
苛立った男は  
少女の頭を掴み—



うっ!

少女の舌が突如  
まるで自分よりも  
大きな獲物に巻きつく  
蛇のように男の亀頭を  
這い回り始め—



千反田…  
もういい……

んっ

んっ

んっ

あ…



すみません  
気持ちよく  
なかったですか？

いや…  
そういうわけでは  
ないんだが…



このあと男の方は  
一度射精されてから  
すぐさま少女を  
襲う展開なのですが…



勘弁してくれ…

とある日

古典部部室の  
暗がりから発掘された  
小冊子の束――

表紙に印刷された  
タイトルは  
『HOT CANDY』

それは代々の  
女性古典部員によって  
書き継がれてきた  
リレー小説だった

省エネ：  
ですか？



すまん

いわば『裏氷菓』とも  
いふべき文集シリーズ  
だったのだ  
姉貴も参加してるの  
だろうか…？

そして

それを読みふけた  
千反田が  
好奇心の盲獣となり

その内容は：  
ちよつと言いくらいが…  
思春期の女子高生の妄想が  
事細かに活写された  
官能…エロ小説――

俺はその好奇心を  
満たす哀れな生け贄と  
なる――  
お馴染みの展開だ…

テーブルに手をついた少女に男は白い陶器のような尻を突き出すよう命じる。そして……



あ……

する……

乱れた熱い吐息を……

尻に吹きかけながら……



千反田の股間……下着がはり付いて……

荒々しく下着を……

ずり下ろした……

おへ……



ん……



何の隔てもなく外気に晒された無垢な少女の艶やかな性器に……



くち……

男は赤黒く膨れ上がった龟头をあてがい……

挿入し……

無遠慮に……

ん……



ああ……ッ！



「くく…具合のいいおまんこだぜ…」  
男の下卑た笑い声が背後から聞えてきて少女は最悪な気分になる。

後ろから犯されて屈辱の呻きをあげながら同時に悦びを感じてしまっている自分の肉体に絶望もしてしまう。



千反田の声で…  
エロい文章聞かされてたら…



折木さん…っ

わたし…もう  
いきそうなので…

はま…

この小説の  
ように…

いっぱい  
奥を突いて…

膣内に…

もっと乱暴に…  
犯して…

はま…

あ…

はま…

はま…

はま…

射精して  
下さい…っ!!

千反田…!

はま…

はま…

はま…

はま…

はま…

はま…





おい...

ストーリー  
変わってないか  
.....

お：折木さんの  
動きが優しすぎる  
せいです.....

は...?



子宮に熱い精液を感じた  
瞬間、頭の芯まで快感が  
全身を突き抜けた.....

こ：腰をぐっと押しつけ  
龟头を子宮口に密着させて  
愛する男が射精を開始するのと  
同時に少女も絶頂に達した.....



あ：膈内<sup>なか</sup>で  
折木さんのが  
また大きく.....

う...っ!



見知らぬ人  
よりも...

気持ちいいって  
わかりました...

好意を持つてる異性に  
犯されるロールプレイ  
の方が.....

でも...



今日は  
可処分エネルギーが  
多いんですか？

折木さんのおちんちん  
いつもより硬くて  
大きくなっています…

んっ…  
んっ…  
んっ…



ダメです…っ！

そんなところ…  
いじっちゃ…あっ…

きたない…です…！

あっ！  
あっ！  
あっ！



あっ！



あっ！

あぁ…



ふぁ…♡  
ペ…ペニスがGスポットを  
擦るたび痺れるような  
快感に襲われ…あ…あ…

あ…♡  
愛液が…

んっ…♡

あっ…!

あっ

あっ…

愛液が垂れ落ちる股間を  
ペニスが突き上げる度…  
悦楽で思考は途切れ…

ぬぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ

ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ

ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ

もう…  
呂律が…

きもち…  
よすぎて…

あぁ…  
いけません…

肉棒が小さな  
膣穴に激しく  
抜き挿しされる…

干反田…!  
もう…でる…

んっ…

小陰唇がめくれ  
白く濁った愛液の  
飛沫が結合部から  
飛び散った…!

ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ

ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ

ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ

ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ

ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ



ふあ…わたしと折木さんの  
唇と性器が…すき間なく  
ぴったり密着しながら…  
膣内射精…

こんなの…  
キモチ…

おすぎおすぎ…



あ…ああ…♡  
こんなにいっぱい  
精液を注がれて  
しまつて…

折木さんの  
赤ちゃんができて  
しまわないでしょうか  
……？

わたし…  
気になります…

ゼリ…♡

はあ…

はあ…

はあ…

はあ…

お…ん…  
あ…あ…あ…



卒業後にも  
お前をもらえよう  
千反田家に向くさ

だから…  
気にするな



もし  
そうになったら  
……



わかってるさ  
でも……

やらなければ  
いけないことなら  
やる

それも  
手短に……だ

といつても  
今日は  
大丈夫な日なので

そんなお手間は  
必要ないかと  
冗談です♥

そ……そうなのか  
いや  
それよりも……  
だな……



お前は本当に  
俺なんかで  
いいのか……?



その……



はい……  
もう……気に  
なりません

でも……きつと  
大変ですよ?



もちろんです！  
折木さんは  
わたしにとって  
特別な…ただ一人の  
大好きな人で…

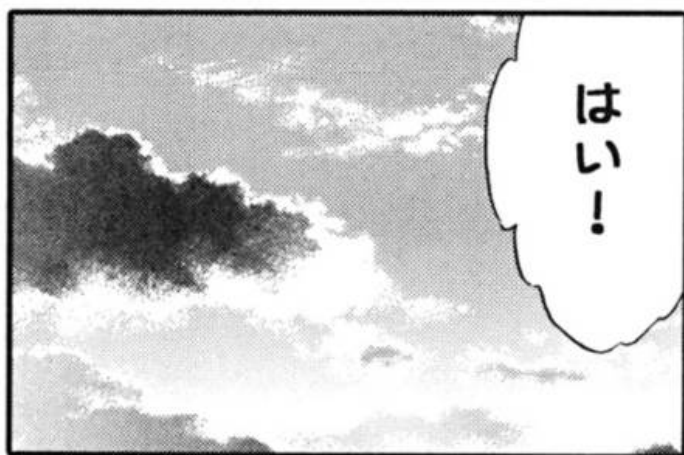
折木さんなら  
わたしをもつとすごい  
エクスタシーまで  
連れていってくれると  
思うのです！！



あっ  
折木さん  
また勃起してしまっ  
たんじゃないですか？

もう一回します？

いいから  
さっさと服を着ろ  
帰るぞ！



はい！



■どうも春風ソヨグです  
氷菓奉える本『HOT CANDY』やっとできましたー  
この本、実は夏コミに出るはずだったんですが…(ノ▽`)

■それはともかく。チタンダエル可愛いですねー  
その可愛さを表現しきれない自分の実力のなさが呪わしい憎らしい嘆かわしいです  
BDも買いたいけれど、今ひどく貧乏で…(ノ▽`)

■この本のプロットを考えたのは七月なんですが…今はもう九月……  
二人の関係性もすっかり変わってしまって、今となってみればこんなじゃなくて  
部室でテレレイチャイチャー→はずみでSEX!  
くらいの素直な流れの方がよかったな、と(ノ▽`)

■ラスト、奉太郎が千反田家に出向くとか言ってますが  
初期のネームではもっとあっさりとしたセリフでした  
ただそれだと「やらなければいけないことならやる。それも手短にだ」が  
微妙な意味に…端的に言えば、えるは嫁のことだと理解したけど  
奉太郎は墮胎を示唆してるように読めなくもない…と…  
そんな誤読を防ぐために、もっとはっきりした言い方をさせてみました

■あと、「もう気になりません」は「気にしません」の方が自然かもですが  
12話か13話にあった折木さんと千反田さんのやりとり

える「でも気になる事があったんですが…」  
ほー（気になる…？）  
える「いえ…やっぱり…気になりません…」  
ほー（大変よろしい）

これが大そう可愛かったので「なりません」を採用した次第です

■そんなわけで、この辺で一  
なにかご意見ご感想がありましたら  
一言でもかまいませんのでいただくと大変嬉しいです  
どしどし励まして下さい！

■次回は久々に笹の葉ハルヒ本でもと思ってましたが  
また千反田さん本になるかもしれません  
それも陵辱なのを…！

■それでは—(\*´ω`)/シ

## HOT CANDY

2012年10月8日初版発行

編集+発行：GUST

印刷：株式会社ホーパリーワン

発行者：春風ソヨグ

<http://gustnavi.sakura.ne.jp/>

[harusoyo7@mail.goo.ne.jp](mailto:harusoyo7@mail.goo.ne.jp)

Twitter ID: harusoyo



summer 2012  
harukaze soyogu  
GUST  
Adult Only